

新型コロナウイルス感染症の影響で、聞法の機会が大きく失われてしまいました。このような時にすこしでも皆様に仏法に触れていただけるよう、紙面1枚程度の短い法話を連載いたします。 小松教務所

仏法の事はいそげ

新型コロナウイルス感染症のことを毎日ニュースで見えるようになって、もう半年近くなりました。皆さんそれぞれに生活の変化を余儀なくされていると思います。私自身、2月の末からいろんな予定がキャンセルとなり、3月からは、ほぼ自宅から出ない生活を送る様になっていきました。

始めのうちは休みが出来て丁度良いくらいに思っていたのですが、そんな生活が1ヶ月以上も続いてくると、一体この状況がいつまで続くのだろうかと心配になってきました。

そんな中、テレビ等でよく聞くのは「不要不急の外出は控えて下さい」という言葉です。この言葉は「これまで当たり前で過ごしてきた私の普段の生活、仕事などは、はたして“不要不急”だったのだろうか」ということを考えるきっかけとなりました。実際、私が普段追われていた“忙しさ”というものは、自粛要請によってすっかり身を潜めてしまっていました。



そこでふと思い出したのが『御一代記聞書』にある蓮如上人の言葉でした。

前々住上人、仰せられ候。仏法のうえには、毎事に付きて、空おそろしき事と存じ候うべく候。ただよろずに付きて、油断あるまじきこと、と存じ候えの由、折々に仰せられしと云々「仏法には、明日と申す事、あるまじく候。仏法の事は、いそげ、いそげ」と、仰せられたり。

(蓮如上人御一代記聞書103 聖典874頁)

【意識】 (浄土真宗聖典 蓮如上人御一代記聞書(現代語訳) 本願寺出版社より) 蓮如上人は「仏法を聞く身となった上は、凡夫のわたしがすることは一つ一つが恐ろしいことなのだと心得なければならない。すべてのことについて油断することのないよう心がけなさい」と、折にふれて仰せになりました。また、「仏法においては、明日ということがあってはならない。仏法のことは、急げ急げ」とも仰せになりました。

「不要不急の外出は控えて下さい」と言われて生活がガラッと変わるということは、普段の生活が“不要不急”のことばかりで成り立っていたのだと言えるのではないのでしょうか。もう少し丁寧に言うならば、普段の生活や仕事が意味のないことであったというのではなく、“忙しい”という言葉に追われる中で“要”となるものを忘れて、その場しのぎの生活に追われていたということです。



“要”をすぐに忘れていく私のすがたこそ、まさに凡夫のすがたなのでしょう。そして、そんな凡夫である私に対して、蓮如上人は「コロナのことが落ち着いたら考えよう、といった“明日”に“要”を先延ばしにするのではなく、不要不急を控える様に言われる“今”にこそ、急いで、聞くべき教えを聞きなさい」と言ってくださっている様に感じました。



「仏法の事は、いそげ、いそげ」。これこそが、本当に“急”を“要”することなのでしょう。

光玄寺 佐竹 融